

松本市森林再生市民会議 第1回運営委員会 議事録要約書

日時 令和4年8月3日（水）
午後5時00分～7時30分
場所 松本市勤労者福祉センター3階
3-1会議室（Web参加あり）

（市）

松本市森林再生市民会議、第1回運営委員会を開会する。

（市長）

森林再生市民会議の運営委員に就任いただき、感謝申しあげる。

松枯れの問題を起点に、一昨年 of 森林再生検討会議、昨年 of 森林再生実行会議に続く会議となる。

市民に森林について関心を高めてもらうこと、将来の森林を中長期的に検討し、松本市森林再生長期ビジョン（以下「ビジョン」という。）を策定していくことに、運営委員の皆さまのご協力をお願いしたい。

松本市では、2050年の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目的としたゼロカーボン実現条例が本年6月に施行した。

松本市の面積の8割を占める森林は、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林、林業の循環を行うことで、脱炭素社会に大きく寄与すると考える。

運営委員の皆さまと一緒に、ビジョンを策定していきたい。各委員の知見に基づいた貴重なご意見、ご提案をいただきたい。

（市）

松本市森林再生市民会議運営委員会設置要綱第5条に基づき、市長が、委員長に三木敦朗様、副委員長に清水裕子様を指名した。

（三木委員長）

市民の皆様に、松本市の森林に関心を持ち、関わってもらうためにはどうしたら良いのかについて話し合い、実際の活動につなげていきたい。

（市）

令和3年度の松本市森林再生実行会議からの提案書では、「市民と森林との距離

が遠い」という課題に対して、イベントやフォーラムを開催することで、多くの市民が森林に関心を持ち、松本市の将来の森林について考えてもらうきっかけづくりが必要であるとの提案がされた。

本委員会は、松本市の森林が将来にあるべき姿やその方向性を示すビジョンを策定するために設置した。

(菊地委員)

設置要綱第2条第2項「イベント等の企画及び運営」は非常に重要である。

経験上、イベントやフォーラムを実施した数日間は、参加者は学んだことや感じたことを生活の中で取り組み、意識的に生活するが、数日間経過すると意識が薄れてしまう。

市民が日常的に生活の近くで森林を感じてもらえるイベントやフォーラムの仕組みを構築する必要がある。

(香山委員)

現在の政策や事業には市民の意見を反映させる仕組みがないので、市民会議を通じて市民の意見を伺い、その意見をビジョンに反映させ、そのビジョンを市は森林政策の参考にするべきである。

(市)

イベントやフォーラムは、運営委員及び事務局で原則運営するが、資材設営の一部をイベント業者に委託する。また、現在、ビジョンの策定に係るコンサル業者を選定中。

(香山委員)

ビジョンの策定には、文書だけではなく市民の皆様に理解してもらえるような写真や絵を取り入れる必要がある。

(三木委員長)

ビジョンの策定は、運営委員が方向性を決め、サポート役としてコンサル業者に委託する。あくまでも業者は細かい調べごとや文書案の作成を行い、運営委員が校正する流れでビジョンを策定していく。

(市)

ビジョンの策定には、森林再生実行会議の提案書に記載された「市民の声を反映させる」ことが重要。イベントやフォーラムには、市民の声を聞くためにコンサル業者に協力してもらい、松本らしいビジョンにしたい。

(三木委員長)

ビジョンの策定を3年間で進めるにあたり、策定前にはパブリックコメント等でビジョンの素案に対して市民の皆様から意見を求める必要があるが、市はどのようなスケジュールを想定しているか。

(市)

3年目の当初には素案を完成させ、パブリックコメント等を開始したい。

今年度のスケジュールは、運営委員会を8月、9月、3月の3回実施し、イベントは、野外的場合寒いので11月までに3回を予定している。そのため、イベント打合せは9月、10月、11月を、フォーラムは年度末を予定している。

(小山委員)

我々と業者は顔を合わせたことがなく、委員が集まるのも今日が初めてで、コンセンサス(注：今後3年間の進め方などについての共通認識)が得られていない中で、イベントだけが先行してしまうのは問題。

また、野外にこだわる必要があるのか。

まずは、運営委員会に参加する全員のコンセンサスを得てからイベントを実施しても良いのでは。冬の時期でも、その時期なりのイベントがあってもよいのでは。

(菊地委員)

小山委員の意見に賛成。

運営委員会として、こういった方向性でイベントを実施していくべきかが、具体的に決まっていな中でイベントを実施することは難しい。

(三木委員長)

ビジョンの策定の委託業者は、いつ頃運営委員会に加わることができそうか。

(市)

委託業者は、9月20日前後に決定する予定。

(小山委員)

本日この場で運営委員会としてのコンセンサスをとることはできるか。

(小穴委員)

昨年度の実行会議から引き続き参加している委員もいるが、初めて参加する委員もいる。まずは委員同士のコミュニケーションをしっかりと取り合う必要がある。

(三木委員長)

それでは、各委員は自己紹介を含めて、松本の森林、林業にどのような課題を感じているかお話いただきたい。

(小穴委員)

20 年前に発生した浅間温泉の山火事で、何とかしなくてはいけないと始まった NPO 法人に 7 年前に入り、住民の方や幼稚園から高校生まで関わってもらっている。現場主義であり、市民の皆さんには現場の匂いを感じてほしい。

(小口委員)

林業の仕事に就いて 20 年。林業の仕事をしていると市民との繋がりは少なく、山と同じで林業も市民にとって遠い存在と認識している。少しでも森林、林業に市民が近づけるようにしていきたい。

(渡辺委員)

6 年前に地産地消の家づくりをする会社にいた際に木や山の良さを知った。また、課題として人手不足、低賃金の状況や山の手入れの問題を知った。

自分たちで山を守らなければ、将来に引き継ぐ山が残らない。子どもや孫の世代、未来の子供たちに森を残すためにはどうしたらいいのかを今も考えている。

また、相続の仕事をした際に、相続した山の範囲がわからない方が多いので、山の整備や活用ができていないことが課題と感じた。これは、市民と森林が離れている課題に繋がる。

この課題を解決できるイベントやフォーラムを一緒に考えていきたい。

(永原委員)

森林と市民が近づくことは簡単ではない。

市民が生活をするうえで、森林や林業（木材）に毎日触れる機会は少ない。かつては、燃料資源として当たり前のように利用されていた木材は、現在では生活様式が変わったり、無くても困らない生活になってしまった。

イベントやフォーラムでは、土木工事で使う木材の話など、市民の生活に関わりがある企画を作っていきたい。

(菊地委員)

松本市は、山と街の距離感が良いと感じた。山が近い場所（静岡県）で生まれ育ち原風景は富士山で、山があると心が落ち着く。松本の街は周囲に山々が広がり、市の8割を森林が占めているのに、森林の再生が必要であることを、生活している中で感じるができなかった。

しかし、松枯れが進むなかで、子どもたちが大きくなった時に周囲がハゲ山では寂しいと感じるようになった。次の世代に山の恵みをどのように引き継いでいくのか一緒に検討していきたい。

(小山委員)

山や森林作業に興味を持つ方が松本市内にもいるが、ボランティア作業などに従事している方は松本市外をフィールドにしている。松本市内の山に来てもらうためにはどうすべきか検討したい。

(香山委員)

市民が政策にどうやって関わっていくのか、政策はだれが作るのか、市民が関わらない政策は良くないのではないかと考えているので、一緒にビジョンを作っていきたい。

(清水副委員長)

松本市は、都市公園や都市的な公園に森林が隣接していて、その森林も自律的な森林であり、希少な動植物が多く存在している。

こうした貴重な財産やインフラがあるということは、森林と市民を近づける課題の解決策に活かせる。

また、あまり森林との関わりが少ない20~40代の世代をターゲットにして、興味深いイベントを先進的に面白く企画・実施していきたい。

(大田委員)

市外出身の私自身は、森林や林業を知る機会が増えているが、まだまだ知らないことがたくさんある。

しかし、松本に住み続けている市民は、そうした機会が少ない印象がある。市民と森林をもっと繋げていけるようなことをしていきたい。

今後は、森林や地域に関わって活動できる場所をもっと広げていきたい。

(小穴委員)

山で行き会う人には、精神的に悩みを抱えている方もいるので、山に来てリフレッシュしてもらえそうな雰囲気づくりを促進できるようにご意見をいただきたい。

(大田委員)

自然に関わる人は、癒しや刺激を求めている方が多いという印象。普段の生活と少し違う環境に身を置けることは、本当に良い時間と思う。そのことを多くの人に知ってほしい。

(三木委員長)

仕事上で森林に関わっている委員に伺いたい。森林の機能の一つとして、山地災害を防ぐ保全機能が大きいと思うが、松本市内の森林は、災害リスクなど何か大きな課題はあるか。

(小穴委員)

私の町会では、地元出身の方が少なくなり、土砂災害の危険な場所を知らない人が多い。危険な箇所について周知を行う必要がある。

(小口委員)

近年は豪雨が多く、山で雨の吸収が追いつかず、下流域で川が増水していると感じることがある。

(三木委員)

清水副委員長から、自ら提案したアイデアを紹介してもらい、他の委員から意見や提案を出してもらい、今後のきっかけ作りをしたい。

(清水副委員長)

菊地委員の「市民の生活に森林や林業をインストールすること」が重要。これがないければ、実体感のある話は一切出来ない。20代後半から40代の現役世代はあまり森林に興味を示しておらず、森林に近づきたい人達もいるが、どの山に入ったらいいいのか、山に入って怒られたりしないかという意見があった。

飯田市の野底山森林公園は、非常に深い山だが、その麓に都市公園があり、自動販売機やトイレがあって綺麗に整備されているので、子ども連れの人でも安心して行ける。こういう超初心者の人も気軽に行けることがとても大切。

目的は、市民と森林の距離を近づけること。

ターゲットは、今まで森林に触れたことがないような超初心者。

都市的公園に隣接した森林は、駐車場や便益施設が整備されて立地条件が良く、子育て世代には波及すると思う。

さらに、林業が幅広い技術を有していることをアピールしたい。例えば、多様な森林を有する都市公園に隣接した場所（アルプス公園が良い例）で、森林を手入れする作業を市民に見せてはどうか。それにより、林業が自分たちの生活を潤いのあるものに行っていることを視覚的にアピールできると思い、イベントをいくつか考えた。

イベントは、超初心者が最後にお土産をもらえて、あまり時間もかからず、道具も必要なし。本当はチェーンソーや薪割りを体験してほしいが、それは次の段階と考えている。

資料の No.1 から No.3 まではハードルをすごく低くして森林に関わるということ意識した。

資料の No.1 を説明する。下草刈りや道の脇の草刈りをする際、在来種の希少植物が結構ある。これを選択的に残してちょっと格好いい草刈りの提案である。お金もかからず、道具も軍手があれば出来る。スキル（知識）を持った先生から、高度で今までにない美しさや創造性を伴った草刈りを教えてもらえると楽しいと思う。

他にも、鹿革を細工したり、鳥の羽で飾り(ピアス)を作って、お土産にももらえたらいいと思っている。

一番大事なことは、生活の中でアクセサリーが欲しいとか素敵な場所を作りたいということが、自分の庭でもできて、難しいことは何もなくて、散歩すれば何かいいものが落ちている、ということを示したい。

(三木委員長)

確かに、この運営委員会で何をしていくのか合意をしっかりとしなければ、イベントだけ先に決めても仕方ない。

一方で、イベント等をやるときに、どのような人たちを頭に思い浮かべて広めるべきか、考える必要がある。

今までの話の中で、気づいた点はあるか。

(小山委員)

ターゲット層を決める際に、次の世代の森づくりを担ってもらう20代～40代の層を選ぶことは、一つの指針になるかもしれない。

(清水副委員長)

林業はプロの仕事という認識を広めたい。その仕事を見てもらい、いかに高度な技術で難しいかを市民に理解してもらいたい。

ただし、初めからプロの仕事を手伝うことは難しいため、山道で木の実やゴミを拾う小さなことから実行することで、自分たちが綺麗にした山道から森林へと繋がり、最終的に市民と森林の距離が近くなるような実体感(生活実態感)を伴うイベントが良い。

(三木委員長)

市民会議の中では、全国共通の課題よりも、ここ松本の森林を将来に残すために、どうすれば良いのかという課題をイベントを通じて、解決していきたい。

その中で市民が森林に関わりたいと思った時に、どこで、何を、どういったことに注意して行えばいいのかを情報発信できるイベントを行っていきたい。

そのためには、森林所有者や地元、林業事業者の協力が必要になる。

イベントの実施予定時期を少し遅らせた。各委員の意見のとおり、具体的な方針やビジョン策定業者が決まってから、話を詰める必要がある。

資料3のイベント運営の打合せ①が8月に予定されているが、実際は10月頃になると予想される。

また、周知期間や気候等も含めて、イベント1回目の実施は、11月を目途でどうか。

(小山委員)

資料3の市民会議運営委員会の②が9月に設定されているが、これを業者選定以降にして業者も交えてアイデア出しを行い、内容を詰めてはどうか。

(香山委員)

運営委員会の時間だけでは足りないので、委員同士が日常的にコミュニケーションを取る必要がある。そこには事務局、ビジョン策定業者にも入っていただくことを提案したい。

また、今後は運営委員会をインターネットで中継したらどうか。

(三木委員長)

提案された日常的にコミュニケーションを取ることは非常に重要。どのようなツールを利用するか検討したい。

会議の公開は、できる限り行いたい。この会議だけオープンにしても市民への周知にはならないと思う。毎回の議事録は、市のホームページに掲載するが、それをもって周知ができたことにはならない。我々が能動的に、決定した内容をどのように周知していくべきか考えたい。

(菊地委員)

次回の委員会内容について提案する。

今回の委員会で、市民という言葉が多く使われたが、委員ごとに、「市民」の範囲について認識に偏りがあると感じた。香山委員が話していた「市民会議の委員は市民全員であるべき」という意見に賛成。

松本市は広く、山に近い地区や市街地など、市民それぞれの時間軸や空間軸、価値観(ライフスタイル)が違う。そのため、一人ひとりに対応するのは難しいので、森林との距離感や心理的距離感が近い人遠い人でグループに分け、広くかつ緻密に設計図を描いたうえでビジョンの策定を目指す必要がある。

ビジョンの素案を2年間で完成させるために、市民のグループ分けを第2回目の運営委員会で行うことがよいのではないかと。

それぞれのグループに対して、どの期間で、どの順番で、どういうことをしていくのかを決めたうえでイベントを実施するべきだ。

そのために、次回はホワイトボードや模造紙を使ったワークを委員全員で行うべき。

委員全員で手や頭を動かして、もっと活発な意見交換やアイデア出しに時間を割くことを提案する。

(三木委員長)

菊地委員の提案どおりに第2回運営委員を開催することは、現時点で分からないが、何を検討してどういう項目に留意していくべきかをビジョン策定業者の意見も聞きながら進めたい。

そのため、第2回目にそれができるのか、あるいは第2回目の前に正副委員長と業者でその辺を確認したうえで第2回目に持ってくるか検討させてほしい。

松本市内では森林がどういうところであって、誰が持っていて、そこに何が生えているのかということは、実際に山で仕事する人はすぐに思い浮かぶことだが、基礎的な情報として各委員が共有しておかないと、すべての委員がそれを思い浮かべられるわけではないので、そのあたりの基本的な資料を第2回運営委員会に向けて準備させてもらいたい。

以上で第1回目の運営委員会を終了する。